

第6回猪苗代町議会定例会 町長説明要旨

開会：令和4年9月6日(火)

本日、令和4年第6回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、何かとご多用の中ご出席いただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

今議会が開催されるに当たり、令和3年度各会計に係る歳入歳出決算の認定案件、令和4年度一般会計並びに各特別会計・事業会計の補正予算、条例の一部改正、工事請負契約、財産の取得、そして、教育長・教育委員・農業委員・人権擁護委員の任命に係る人事案件など、重要な議案等を提出しておりますので、慎重なるご審議をお願いするとともに、議員各位のご理解とご協力を併せてお願い申し上げます。

提出議案等の説明に先立ちまして、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

(新型コロナウイルス感染症対策について)

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策について申し上げます。

県内においては、8月に入り感染拡大に歯止めがか

からず、医療体制が危機的状況にあることから、8月12日に「福島県医療非常事態宣言」及び「福島県感染拡大警報強化版（BA.5対策強化宣言）」が発出され、県民の方々に「基本的な感染対策の再点検と徹底」など9項目にわたる協力要請がなされ、9月19日まで延長されたところであります。

一方、町内においても、8月には、介護施設でクラスターが発生し、また、新規感染者数が二桁となる日が続き、感染拡大がみられたところであります。

そのため、8月は防災無線を活用して、町民の皆さんに日常生活の中でも決して気を緩めることなく、徹底して感染防止対策に取り組んでいただくようお願いしてきたところであります。

なお、7月から本格的に接種を開始した60歳以上及び基礎疾患保有者・医療従事者等を対象とした4回目のワクチン接種の状況は、8月末で38.1%であり、引き続き接種の推進に努めてまいります。

また、現在、国において議論されております オミクロン株 対応ワクチンの接種につきましては、国の動向を注視しながら接種体制の準備を進めてまいりたいと考えております。

町といたしましては、全ての町民の皆さんと危機感を共有し、この難局を乗り越えていきたいと考えておりますので、一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

（総合防災訓練について）

次に、本年度実施を予定しております総合防災訓練について申し上げます。

町では、災害対策基本法及び地域防災計画に基づき関係機関と緊密な連携のもと、災害時における各種の対応が迅速かつ確実に実施できるよう 防災体制を確立するとともに、近年 多発する甚大な自然災害に備え、併せて 町民の皆さんの防災意識の高揚を図るため、総合防災訓練を隔年で実施しております。

昨年度は新型コロナの感染拡大により「延期」としましたが、災害は待ってくれませんので、千里地区において感染防止対策を徹底し 10月1日に実施することといたします。

コロナ禍での大雨や地震の発生など様々な災害を想定し、万全の準備を整えてまいりますので、町民の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

（農業情勢について）

次に、農業情勢について申し上げます。

本町農業の基幹作物であります水稻の生育状況がありますが、民間の米穀データバンクが発表した7月31日現在の作柄予想によりますと、全国の作況は「101」の「平年並み」、福島県は「102」で「やや良」の予想となっております。

本町では、田植えから天候に恵まれましたが、その後、不安定な天候が続き梅雨入りとなるも、史上最短2週間での梅雨明けとなりました。7月に入ると「戻り梅雨」となり、8月には線状降水帯による大雨に見舞われるなど、今年は非常に不安定な天候となっており、いろいろと心配されますが、幸い、気温は高めに推移していることから、稲の生育に遅れは見られず、豊作を期待しているところであります。

なお、国内の米の動向に目を向けてみますと、本年産米につきましても、昨年から引き続き国内の米消費量の大幅な減少のため「主食用米」の価格低迷が心配されております。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻などが原因となり、世界的な物価高騰により燃油や肥料の生産費の増加も懸念されており、米の生産を含む農業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

本町では、これらの対策といたしまして、福島県や会津よつば農業協同組合、生産者団体などの関係機関と協力し、また、農業者の皆さんのご協力をいただき、「備蓄米」並びに「飼料用米」の取り組みを強力に推進し、「主食用米」の生産量の調整を図るとともに、町独自の「猪苗代町燃油価格等高騰対策支援金」を予算化するなど、農業者の経営の安定確保を行ってきたところであります。

今後、農業者の経営の安定と所得の向上を目指し、

その年の状況や条件を加味して 機動性のある本町農業の振興に取り組んでまいります。

（鳥獣害対策について）

次に、鳥獣害対策について申し上げます。

はじめに、ツキノワグマについてであります。福島県では、出没多発を予測し 3月から7月末まで「クマ出没注意報」を発令しておりましたが、7月11日の安達太良山の人身事故や7月27日の会津若松市での死亡事故を受け、注意報を特別注意報に切り替えるとともに、その期間が8月末まで延長されたところであります。

なお、安達太良山の人身事故につきましては、本町管内であったことから、登山口へ看板を設置し登山者へ注意喚起を行うとともに、ホームページでの呼びかけや 集落に電気柵の点検を依頼するなどして警戒を強めてきたところであります。

ツキノワグマの出没数は昨年同期と比べ同程度であります。悪質な出没については有害鳥獣捕獲にて対応しており、8月31日時点での捕獲数は8頭と、こちらも昨年同期と比べ同数となっております。

なお、8月31日時点でのニホンザルの捕獲数は21頭、イノシシは27頭となっております。

鳥獣害から農作物などの被害を防止するには、緩衝帯整備などの生息環境管理、花火による追い払いや

侵入防止柵設置などの被害防除、さらには個体の有害鳥獣捕獲といった対策を総合的に取り組むことが重要であります。

今後も、メールマガジンによる的確な情報提供や電気柵等設置補助事業を推進するとともに、有害鳥獣駆除員との連携を図りながら、町民の皆さんと一緒に鳥獣害対策に取り組み、継続的に支援してまいります。

（第２６回猪苗代新そば祭りについて）

次に、猪苗代新そば祭りについて申し上げます。

毎年、秋に開催しております「新そば祭り」ですが、昨年・一昨年と、１，０００円で１，５００円分の「そば」を楽しめる「プレミアム新そば券」を発行し、町内のそば店で「新そば」を楽しんでいただき、ご好評をいただいたところであります。

本年度につきましても、町内のそば店のご協力をいただきながら、本町産ブランドそば「いなわしろ天の香」をはじめ、おいしい「そば」を食べられる町「猪苗代蕎麦の里」を県内外に広くＰＲすることを目的に、おもてなしの心で本町へご訪問いただく皆さんをお迎えするとともに、関係団体の皆さんと力を合わせ、新型コロナウイルス感染防止対策を十分講じながら万全の態勢で、「第２６回猪苗代新そば祭り」を開催してまいります。

（観光振興対策について）

次に、観光振興対策について申し上げます。

本年1月から6月までの「道の駅猪苗代」を含んだ本町の主な観光施設の延べ 入り込み客数は約100万人で、前年同期の約73万人と比較すると27万人、率にして約37%の増加となっております。

主な要因としては、今年3月上旬まで本県において、「まん延防止等重点措置」を適用したものの、町内スキー場入込客数が昨シーズン時期と比較して約5万8千人増となったことや、各温泉地などの観光施設において、徐々に増加傾向が見受けられ、ウィズ・コロナの状況が続き感染症拡大の収束が見込めない状況下ではありますが、全国的に経済活動の加速化が見られることにより 増加したものと考えられます。

全国的に新型コロナウイルス感染症の第7波の感染拡大が続いている状況ではありますが、今年は特に梅雨明けが早く、猪苗代湖など、7月の入り込み客数は増加傾向にあり、7月下旬には、3年ぶりの磐梯まつり や 天神浜での「あいづサマースカイフェス」を開催するなど、徐々に賑わいを取り戻しております。

これから、紅葉並びにスキーシーズンを迎えますので、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した、秋のイベント開催や冬期間における観光情報発信の充実を図りながら、観光誘客に努めてまいります。

（風評被害対策について）

次に、風評被害対策について申し上げます。

復興支援イベントとして位置付けております「いなわしろ花火大会」は、急拡大する第7波の新型コロナウイルス感染症の影響に配慮し、実行委員会ではすでに冬期シーズン実施に向けた「延期」と決定しております。

また、感染拡大が長期化する状況ではありますが、震災後、特に低迷している教育旅行の回復を図るため、バス代を助成する教育旅行支援事業を実施しているところであります。今年も春先から問い合わせも多く、バス助成費予約件数では当初見込み610台から290台増の900台、さらに旅行代理店への助成費予約件数では220校から85校増の305校となっております。

現在、新型コロナウイルスの収束が見込めない状況下であり 年内のキャンセルも予想されますが、旅行バス増加台数分の費用を助成するなど、今議会において 補正予算をお願いし、引き続き教育旅行の回復と風評被害の払拭に努めてまいります。

（緊急経済対策について）

次に、緊急経済対策について申し上げます。

長期化が予想される新型コロナウイルス感染症拡

大の影響については、特に、観光客などの減少により景気低迷が続いており、地元事業者は大変厳しい状況にあります。金融支援としては、町内金融機関に預託している貸付金を運用資金として活用いただく、中小企業経営長期安定資金融資など、制度資金の運用と併せて、信用保証料補給及び利子補給制度による補助金の交付に努めております。

金融支援のほか、現在、町内の経済対策として、全町民の皆さんへ1人あたり5千円分の町民応援商品券を配布し、新型コロナウイルス感染対策と町内事業所の経営維持のための支援に努めております。

さらに、秋から年末年始にかけて実施する「町民宿泊施設等 利用助成金事業」（町民割）や「事業者経営支援電子クーポン発行事業」、今年度は販売セット数を増やした中小 小売店活性化事業「プレミアム商品券発行事業」はプレミアム率を20%とし、原材料や原油価格高騰で生活に不安を抱える町民の皆さんの支えになるよう消費拡大を図り、町内事業者への経済の活性化対策に引き続き努めてまいります。

（統合中学校整備事業について）

次に、統合中学校整備事業について申し上げます。

新生猪苗代中学校ですが、関係各位のご協力により予定通り4月に開校することができました。

開校してから約5か月が経過し、生徒たちは学校生

活にも慣れ、学業にそして部活動に専念しております。

特に陸上競技では、東北・全国大会への出場を果たすなど、これまでの努力が報われる成績が現れております。

なお、先週行われました全会津中学校体育大会駅伝競走大会でも 県大会出場を決めるなど素晴らしい成績を挙げております。

中学校統合という大きな環境の変化がありましたので、引き続き、生徒の様子を注視し、全ての生徒が充実した中学校生活を送られるよう支援してまいります。

また、新屋内運動場の建設工事ですが、杭基礎工事が終了し、現在基礎コンクリート工事を行っているところであります。

工事実施に当たっては通行規制や騒音など、周辺住民の皆さんにご迷惑をかけないように、十分配慮してまいります。

（小学校の統合事業について）

次に、小学校の統合事業について申し上げます。

小学校の統合につきましては、耐震が図られていない危険校舎と複式学級の解消を図るため、平成25年3月の町教育施設 適正配置等推進委員会からの提言に基づき 小学校6校を3校に統合するよう進めてまいりましたが、推進委員会から2校でも良いのではな

いか、とのご意見をいただきました。

そこで、各小学校の保護者と地区ごとの行政区長さんを対象とした説明会を開催し、6校から2校とする案について概ね了承をいただき、推進委員会からは8月23日に提言書が提出されました。

今後も、令和6年春の小学校統合を目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

（文化芸術の推進について）

次に、文化芸術の推進について申し上げます。

生涯学習と社会教育の推進につきましては、体験交流館「学びいな」や図書歴史情報館「和みいな」、総合体育館「カメリーナ」を生涯学習・社会教育の拠点として、多くの皆さんにご利用いただいております。

今年度につきましても、なかなか収束の見えない新型コロナウイルスの感染状況から、各種イベントや講座などの中止や延期も決断しながら対応せざるを得ず、利用者の皆さんには大変ご不便をおかけしているものと考えております。

「学びいな」では、町民の文化活動を推進するため、展示物を中心とし規模を縮小しながら3年ぶりに「夏祭り」を開催したところであります。さらには、「秋祭り」につきましても、感染状況を確認しながら開催の方向で検討しており、各文化団体の活動の成果を観ていただくとともに、「密」にならない程度に

町民の皆さんの交流の場を提供してまいります。

また、21回目の開催となる「母から子への手紙」コンテストは、7月1日から募集を始め、全国から順調に応募作品が届いております。10月3日で募集を締め切り、今後、お母さん委員会のご協力のもと1次選考を実施し、最終選考や表彰式なども準備をしてまいります。

「和みいな」では、「新しい生活様式」を推進するため、在宅で過ごす時間を少しでも有意義に過ごしていただくため、図書館パワーアップ事業により新着図書を増やし読書環境の充実を図っております。

また、10月に全線再開通される只見線について、「秘境路線」の魅力を紹介するため、写真家の星賢孝氏ほかの協力による特別写真展を8月27日から9月24日まで開催することとしたものであります。

今後、これら文化施設の適切な運営と維持管理に努め、関係団体と協力し、本町の生涯学習と文化芸術を推進してまいります。

（県高等学校駅伝・ふくしま駅伝について）

次に、福島県高等学校駅伝競走大会について申し上げます。

今年も、総合体育館「カメリーナ」をスタート・ゴールに、男子が第67回、女子が第40回となります。福島県高等学校駅伝競走大会が10月20日に

開催されます。

高校駅伝事務局では、駅伝コースの走りやすさや自然環境、宿泊施設の充実、交通規制の観点などから、本町での継続開催についての要望があり、平成26年度から連続して9回目の開催となっております。

なお、本大会は全国大会の県予選も兼ねていることから40を超える参加校があり、事前現地練習等も含め、多くの選手や監督、役員の皆様にお越しいただくこととなります。

本町といたしましては、コースの設営や運営役員等の支援を行い、大会運営に万全を期するとともに、町民の皆さんにもボランティアとしてご活躍いただき、「スポーツ振興宣言の町」猪苗代をアピールしてまいります。

また、第34回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会につきまして、白河から県庁までの16区間での開催が予定されております。昨年同様、感染防止対策を講じながらの大会となるため、町民の皆さんにおかれましては、テレビやラジオでの応援をお願いしたいと考えております。

引き続き、猪苗代町のため懸命に「タスキ」をつなぐ選手の皆さんを全面的にバックアップしてまいります。

（東京2020オリンピック・パラリンピックの事後

交流について)

次に、東京2020オリンピック・パラリンピックの事後交流について申し上げます。

8月6日に開催しました、本町とガーナ共和国との交流イベントは、駐日ガーナ大使館のご協力のもと、元Jリーガーで日本人とガーナ人のハーフである矢野マイケル氏を迎え、ミニサッカー教室を町内の子供たちを対象に開催しました。また、矢野マイケル氏とその弟の矢野デイビット氏やJICAを通じて青年海外協力隊としてガーナ共和国で活躍された方々とのパネルトーク、さらには、矢野兄弟による音楽のパフォーマンスなどが実施され、会場に訪れた町民の皆さんもガーナ共和国の文化に直接触れ、改めて野口英世博士の偉業やガーナ共和国の日常生活を感じていただけたことと思います。

今後、コロナ禍の状況ではありますが、ガーナ共和国とのさらなる交流が図られるよう、事業を進めてまいります。

(提出案件について)

次に、本定例会に提出いたします案件は、

令和3年度の一般会計、特別会計及び事業会計に係る歳入歳出決算の認定案件が4件、

令和4年度の一般会計、特別会計及び事業会計に係る補正予算案件が10件、

条例の一部改正案件が 4 件、
工事請負契約と財産の取得がそれぞれ 1 件、
過疎地域持続的発展計画の一部変更が 1 件、
教育委員会 教育長と教育委員並びに農業委員の
同意案件が計 3 件、
人権擁護委員候補者の諮問案件が 1 件、の
合計で 25 件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する
担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議の上
速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。